



年頭所感

一般財団法人北海道開発協会会長

町野和夫

明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本中を熱狂させたパリ2024オリンピック・パラリンピックでは、多くの皆さんが活躍して、たくさんの夢と感動を与えてくれました。また、日本最大となる「日高山脈襟裳十勝国立公園」が道内7番目の国立公園として誕生し、北海道の魅力が一層増したことも喜ばしい出来事でした。

北海道経済も、観光をはじめとする需要が回復へ向かいつつある中、次世代半導体製造拠点の整備やGX（グリーントランスフォーメーション）の取組などにも着々と進展が見られている状況です。北海道がその有するポテンシャルを活かし、持続的な発展につなげていくことが期待されます。

政府では、高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーといった北海道の価値を最大化することにより、豊かな北海道を実現するとともに、現下の国の課題解決を先導するとして、第9期となる北海道総合開発計画を閣議決定しました。人口減少が全国に先んじて進んでいる北海道においては、産業や地域社会の担い手不足による影響も見られますが、こうしたことを克服して力強い北海道を築き上げていく

ことが待望されます。

北海道開発協会としましても、新たな時代の要請を踏まえた北海道開発の推進に寄与するべく、産学官民と連携しながら地域活性化に資する調査研究、広報活動、研修会の開催などを積極的に実施してまいります。

調査研究では、豊かな可能性を有しながらも人口減少が進む中で生じる課題に直面する地域において、生活関連サービスの維持や地域の持続性を高める方策について調査を進めるとともに、運転手不足に伴う路線バスの減便などに顕著な人手不足への対応事例について調査を行います。また、地域社会の存立に不可欠なコミュニティの活性化やこれからのあり方について調査を行うとともに、多様な市民団体等の地域活性化活動を支援していきます。さらに、北海道を語る上で欠かせない「食」や北海道観光を持続可能なものとしていくための調査を進めます。これらの成果については、本誌「開発こうほう」でも分かりやすく紹介していきます。

結びに、新しい年が皆さまにおかれましても希望の年となることを祈念しまして、新年のご挨拶といたします。

